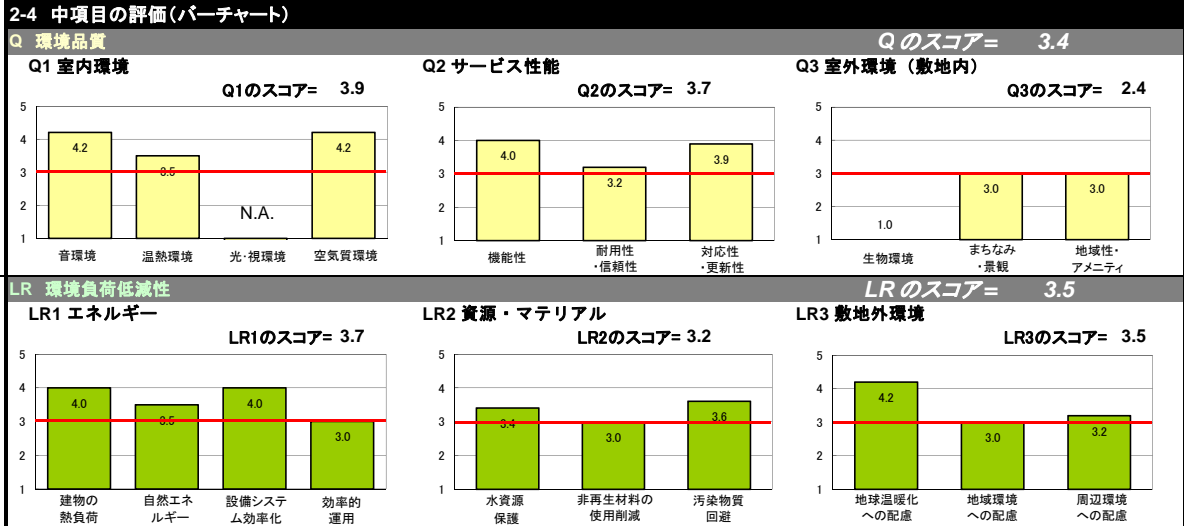
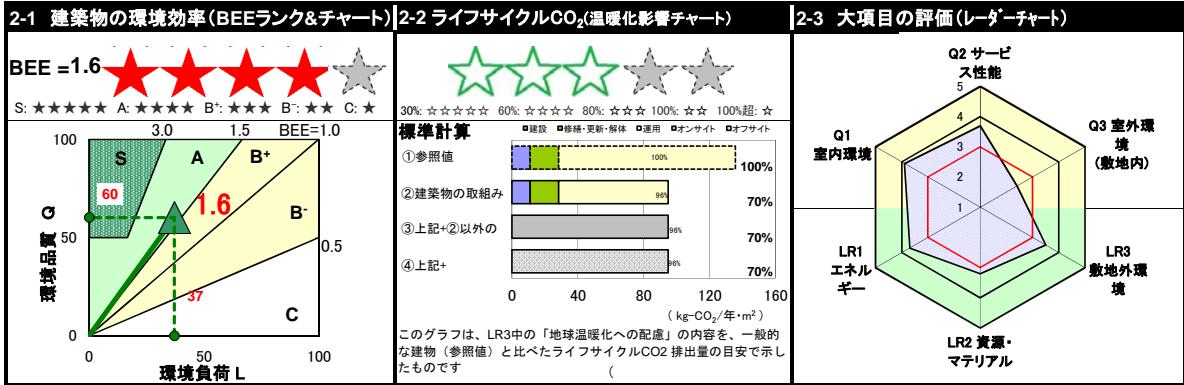


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新コムセンター建設工事	階数	地上2階
建設地	刈谷市八軒町五丁目50 他62筆	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	87 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	2014年9月5日
敷地面積	5,376.00 m ²	作成者	アイシン開発株式会社
建築面積	1,459.89 m ²	確認日	2014年9月5日
延床面積	2,809.39 m ²	確認者	アイシン開発株式会社



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>8.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	8.8 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	8.8 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								3.4
1 音環境					4.2	0.23	-	4.2
1.1 騒音					3.0	0.40	-	-
1 室内騒音レベル					3.0	1.00	3.0	-
2 設備騒音対策					-	-	-	-
1.2 遮音					5.0	0.40	-	-
1 開口部遮音性能				開口部遮音性能T-2	5.0	1.00	5.0	-
2 外壁遮音性能					3.0	-	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	-
1.3 吸音				壁・床・天井に吸音材を使用	5.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境					3.5	0.44	-	3.5
2.1 室温制御					3.6	0.50	-	-
1 室温					3.0	0.50	3.0	-
2 負荷変動・追従制御性					-	-	-	-
3 外皮性能				外壁サンドイッチパネルU=0.575 窓U=2.84	5.0	0.17	3.0	-
4 ゾーン別制御性				内部負荷を考慮したゾーニングをしている	4.0	0.33	-	-
5 湿度・湿度制御					-	-	-	-
6 個別制御					-	-	-	-
7 換気・空調に対する配慮					-	-	-	-
8 監視システム					-	-	-	-
2.2 湿度制御					1.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式				床吹き出し空調の採用	5.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境					-	-	-	-
3.1 昼光利用					-	-	-	-
1 昼光率					3.0	-	3.0	-
2 方位別開口					-	-	3.0	-
3 昼光利用設備					3.0	-	3.0	-
3.2 グレア対策					-	-	-	-
1 照明器具のグレア					3.0	-	3.0	-
2 昼光制御					3.0	-	3.0	-
3 視覚的対策					-	-	-	-
3.3 照度					3.0	-	3.0	-
3.4 照明制御					3.0	-	3.0	-
4 空気環境					4.2	0.33	-	4.2
4.1 発生源対策					5.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質				全面にF☆☆☆☆の材料を使用している	5.0	1.00	5.0	-
2 揮発性有機化合物					-	-	-	-
3 放射性物質					-	-	-	-
4 ヒートショック対策					-	-	-	-
4.2 換気					3.0	0.30	-	-
1 換気量					3.0	0.50	3.0	-
2 自然換気性能					3.0	-	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	-
4 給気計画					-	-	-	-
4.3 運用管理					4.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視					3.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御				ビル全体を禁煙としている	5.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能					-	0.30	-	3.7
1 機能性					4.0	0.40	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ					4.0	0.40	-	-
1 広さ・収納性					3.0	-	3.0	-
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	3.0	-
3 バリアフリー計画				バリアフリー新法の望ましいレベルを満たしている	4.0	1.00	-	-
1.2 心理性・快適性					4.0	0.30	-	-
1 広さ感・景観					3.0	-	3.0	-
2 リフレッシュスペース					3.0	-	3.0	-
3 内装計画				建物の機能が明確、用途に合わせた照明計画	4.0	1.00	-	-
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計				外壁に防汚性の高い建材を用いている	4.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保				清掃員控室の設置	4.0	0.50	-	-
3 耐震・耐風業務					-	-	-	-
2 耐用性・信頼性					3.2	0.31	-	3.2
2.1 耐震・免震					3.0	0.48	-	-
1 耐震性					3.0	0.80	-	-
2 免震・制振性能					3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.33	-	-
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				② 屋外階段手すり(スチール製)25年	4.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				タイルカーペット・EP仕上 20年	5.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給排水管にBを使用	5.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					2.0	0.23	-	-

2.4 信頼性				3.4	0.19			
1	空調・換気設備		②	4.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			4.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.9	0.29			3.9
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31			
1	階高のゆとり			3.0	-	3.0		
2	空間の形状・自由さ			4.0	1.00	3.0		
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1	空調配管の更新性		②	3.0	0.17			
2	給排水管の更新性			3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		●	③	1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④	3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建築物の熱負荷抑制				4.0	0.30			4.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30			4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水				4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63			3.0
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●		1.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●		5.0	0.25			
躯体と仕上が分別可能				3.6	0.22			3.6
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.32			
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4.0	0.68			
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-			
1 消火剤				5.0	0.50			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
フロン系発泡剤を使用していない								
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	4.2	0.33			4.2
ライフサイクルCO2 =94.79 (参照値135.52)				3.0	0.33			3.0
2 地域環境への配慮				3.0	0.25			
2.1 大気汚染防止				3.0	0.50			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.2	0.25			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減		●		3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				5.0	0.25			
3 交通負荷抑制		●		2.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.2	0.33			3.2
適切な量の駐輪場・駐車場の設置				3.0	0.40			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.33			
1 騒音		●		3.0	0.33			
2 振動		●		3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	0.30			
3 日照障害の抑制				4.4	0.20			
3.3 光害の抑制				5.0	0.70			
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策				3.0	0.30			
2 眩光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								
評価する取組表の項目について、過半を満たしている								

重点項目スコアシート
新コムセンター建設工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.5_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	当企業の製品を一般向けに展示する目的の建築物。エントランス・ラウンジ廻りは明るく開放的な空間、その他のスペースは各展示内容に沿った仕様としている。展示空間は不特定多数の利用があるため、バリアフリーへの配慮もしている。設備にはGHP(発電型含む)、コジェネレーションシステムを採用し、節電にも貢献できる仕様となっている。
Q1 室内環境	外装材にサンドイッチパネルや、複層ガラスを採用し、熱の侵入に対して配慮をしている。空調機器は内部負荷を考慮してゾーニングをし、室によっては床吹き出し空調とするなど、各室の用途に合わせた的確な設計としている。
Q2 サービス性能	展示場という用途のため、建物全体の自由度が高い計画としている。また外壁には防汚性の高い建材を採用し、長期間に渡っての使用が可能となっている。バリアフリー新法に対応しており、不特定多数の人々に対しても使いやすい計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	既存の建物に合わせた外観とし、周辺にバランス良く調和させた計画としている。また、道路に面して緑地を配置し、景観にも配慮している。
LR1 エネルギー	断熱性の高い外装計画、設備にはGHPを用いることにより、省エネ性能の高い建物となっている。太陽光パネルの設置やコジェネレーションシステムの採用により、エネルギーの有効活用もできる計画としている。
LR2 資源・マテリアル	衛生器具は節水型を選定している。フロン系発泡剤を使用していない断熱材を採用している。
LR3 敷地外環境	敷地内に十分な台数の駐輪場・駐車場を設け、敷地外への影響を少なくしている。ライフサイクルCO2が一般的な参照値に対して3割程度低い値となっている。
その他	